

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費に一部弱さが見られたものの持ち直しの動きが続き、雇用・所得環境においては改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社は海外事業の強化、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。

当第1四半期累計期間における売上高につきましては、給袋自動包装機の販売台数が増加したことから、前年同期に対し36百万円増収の1,020百万円(前年同期比3.7%増)となりました。

利益面につきましては、販売費及び一般管理費が増加したものの、増収に伴う売上総利益の増加により、営業利益70百万円(前年同期比50.1%増)、経常利益75百万円(前年同期比55.0%増)、四半期純利益51百万円(前年同期比46.5%増)と前年同期に対し増益となりました。

当社は、自動包装機械製造事業の単一セグメントであります。単一セグメントを品目別に分類した場合における品目別売上高の概況は次のとおりであります。

給袋自動包装機は、販売台数が増加したことから、売上高は611百万円(前年同期比61.3%増)となりました。

製袋自動包装機は、平均価格が減少したことから、売上高は31百万円(前年同期比78.1%減)となりました。

包装関連機器等は、包装システムの販売実績が減少したことから、売上高は47百万円(前年同期比78.4%減)となりました。

保守消耗部品その他につきましては、保守案件の実績が増加したことから、売上高は329百万円(前年同期比38.5%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は4,318百万円となり、前事業年度末に比べて47百万円減少いたしました。この主たる要因は、棚卸資産が350百万円増加したものの、現金及び預金が362百万円減少したこと、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が45百万円減少したこと等によります。

固定資産につきましては、当第1四半期会計期間末残高は935百万円となり、前事業年度末に比べて11百万円増加いたしました。この主たる要因は、投資その他の資産が15百万円増加したこと等によります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ35百万円減少し、5,254百万円となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は2,171百万円となり、前事業年度末に比べて55百万円減少いたしました。この主たる要因は、前受金が241百万円増加したものの、仕入債務が247百万円減少したこと、未払法人税等が25百万円減少したこと等によります。

固定負債につきましては、当第1四半期会計期間末残高は92百万円となり、前事業年度末に比べて1百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ57百万円減少し、2,264百万円となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高につきましては、利益剰余金の増加等により、前事業年度末に比べ21百万円増加し、2,990百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発費の総額は43百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。